

令和2年度(2020年度)

管理事業名	自然体験交流センター事業				総合計画の体系	大綱 4 政策 3 施策 1	子育て・学び 青少年がすこやかに育つまちづくり 青少年の健全育成
主な歳出 予算科目	一般会計	(款) 10	教育費	(項) 5	社会教育費	(目) 5	自然体験交流センター費
部局名	地域教育部	予算執行所属	青少年室				
予算大事業名	自然体験交流センター事業						
上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名							
事業の目的と概要							
【目的】青少年に集団での生活を通じて自然と共生し、あらゆる生物の命の尊さを体感する場を提供するとともに、市民に自然を生かした生涯学習及び交流の場を提供し、青少年の社会性及び豊かな人間性を育むことを目的としています。							
【概要】幼児から高齢者まであらゆる世代の市民が、自然の中でリフレッシュしながら自然体験活動や生涯学習の場として活動するとともに、交流の場として利用できるよう、施設の管理運営を行います。							

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標の定義
利用者数	人	43,455	45,510	11,688	1年間を通して自然体験交流センターを利用した人数。
使用料収入	円	7,554,090	7,342,860	1,990,930	使用料の収入実績。
成果の説明	自然体験交流センターは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う臨時休館、日帰り利用のみの受け入れや利用人数の半減などの利用制限により、例年のような施設運営はできませんでしたが、手指消毒や利用団体の密を保つなどの感染拡大防止策を徹底し、利用者の受け入れや主催事業を行いました。 なお、指定管理料のうち、光熱水費等の余剰額については、市へ返納がありました。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	7,554	7,343	1,991	△5,352
経常収入				
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	130	279	309	30
経常収入 小計(a)	7,684	7,622	2,300	△5,322
経常費用				
給与関係費	1,439	8,691	1,513	△7,178
物件費	82,815	83,299	81,496	△1,803
維持補修費	1,287	1,171	1,577	406
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	-	-	-	-
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	19,397	20,617	20,617	-
費用				
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	131	2,651	131	△2,520
退職手当引当金繰入額	113	8,711	△7,882	△16,592
支払利息	1,434	331	15	△316
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	106,615	125,472	97,468	△28,004
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△98,931	△117,850	△95,168	22,682
特別収入				
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	-
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	-	-	-
特別費用				
固定資産除売却損	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別支出 小計(e)	-	-	-	-
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	-	-	-
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△98,931	△117,850	△95,168	22,682
一般財源充当額	143,875	114,445	86,613	△27,832
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	44,945	△3,405	△8,555	△5,150

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
使用料及び手数料	自然体験交流センター使用料 1,991千円
物件費	指定管理委託料 81,496千円
減価償却費	自然体験交流センター建物 20,617千円

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

区分	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	7,684	7,622	2,300	△5,322
行政サービス活動支出	87,239	94,478	87,369	△7,109
行政サービス活動収支差額	△79,555	△86,856	△85,069	1,787
投資活動収入	-	-	-	-
投資活動支出	12,202	-	-	-
投資活動収支差額	△12,202	-	-	-
財務活動収入	-	-	-	-
財務活動支出	52,118	27,589	1,544	△26,045
財務活動収支差額	△52,118	△27,589	△1,544	26,045
収支差額 合計	△143,875	△114,445	△86,613	27,832
一般財源充当額	143,875	114,445	86,613	△27,832
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容	(財務活動支出) 青少年野外活動センター再整備費の地方債償還
----------	-----------------------------------

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
利用者1人あたりのコスト	平成30年度	43,455 人	2,453 円	自然体験交流センター利用者1人あたり8,339円のコストがかかっています。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による臨時休館の影響により、利用者1人あたりのコストは5.582円増加しています。
	令和元年度	45,510 人	2,757 円	
	令和2年度	11,688 人	8,339 円	
開所日1日あたりのコスト	平成30年度	343 日	310,831 円	自然体験交流センター1館で1日あたり338,430円のコストがかかっています。
	令和元年度	322 日	389,664 円	
	令和2年度	288 日	338,430 円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	令和元年度末 A	令和2年度末 B	差額 B-A	勘定科目	令和元年度末 A	令和2年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	4,195	131	△4,064
未収金	-	-	-	地方債	1,544	-	△1,544
流動資産	-	-	-	短期借入金	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	賞与引当金	2,651	131	△2,520
短期貸付金	-	-	-	未払金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	リース債務	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	その他流動負債	-	-	-
有形固定資産	686,421	665,804	△20,617	固定負債	9,185	1,186	△7,999
土地	-	-	-	地方債	-	-	-
建物・工作物	686,421	665,804	△20,617	長期借入金	-	-	-
リース資産	-	-	-	退職手当引当金	9,185	1,186	△7,999
建設仮勘定	-	-	-	リース債務	-	-	-
無形固定資産	-	-	-	その他固定負債	-	-	-
固定資産	-	-	-	負債の部合計	13,380	1,318	△12,063
有形固定資産	-	-	-	純資産	673,041	664,486	△8,555
土地	-	-	-				
建物・工作物	-	-	-				
建設仮勘定	-	-	-				
重要物品	-	-	-				
図書館資料	-	-	-				
投資その他の資産	-	-	-				
出資金	-	-	-				
長期貸付金	-	-	-				
基金	-	-	-				
徴収不能引当金	-	-	-	純資産の部合計	673,041	664,486	△8,555
その他債権	-	-	-				
資産の部合計	686,421	665,804	△20,617	負債及び純資産の部合計	686,421	665,804	△20,617

Ⅲ 財務構造分析

▽人にかかるコストの内訳

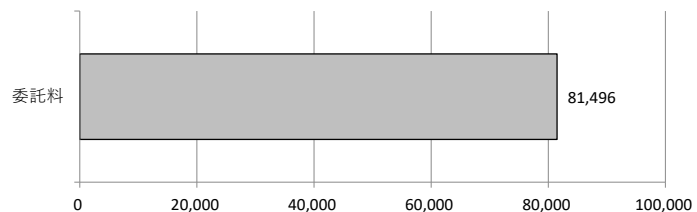
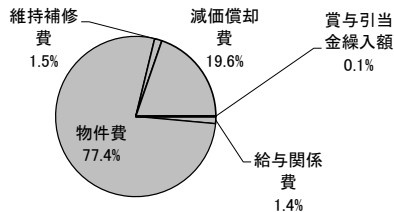
	常勤・再任用 月平均	会計年度任用等 年間従事延日数	特別職非常勤 年間従事延日数	
事業従事人数	0.2人		10日	
給与関係費等	△6,321千円		84千円	合計(千円) -6,237
内、時間外勤務手当	0千円			

貸借対照表の主な増減理由(特微的な事項)

勘定科目	増減理由
建物・工作物	自然体験交流センター建物の減価償却による減

▽経常費用の構成割合

物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	吹田市自然体験交流センター(わくわくの郷)
取得年月日	昭和36年(1961年)12月14日
建物・工作物の取得価額	1,068,372千円
建物・工作物の減価償却累計額	402,568千円
利用料金収入	1,991千円

▽分析指標

(単位:%)

分析指標	年度	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差 B-A
施設維持補修費比率		0.1	0.1	0.1	0.0
施設老朽化比率		33.8	35.8	37.7	1.9
受益者負担比率		7.1	5.9	2.0	△3.9
徴収不能引当率		-	-	-	-
一般財源充当比率		94.9	93.8	97.4	3.6
経常費用対公共資産比率		10.0	11.7	9.1	△2.6

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は57.2%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

【貸借対照表】
既存施設の老朽化が1.9%進行しました。
【行政コスト計算書】
経常費用の主なものについては、物件費81,496千円(77.4%)、減価償却費20,617千円(19.6%)、給与関係費1,513千円(1.4%)となっています。コスト全体の77.4%を占める物件費の内訳は全て委託料です。

3

▽分析結果を踏まえた事業の課題

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う臨時休館や定員縮小などの利用制限により、利用人数及び使用料収入が減少しましたが、平成29年度以降3年間は、利用者数は増加傾向にありました。(参考:平成29年度45,075人、平成30年度43,455人、令和元年度45,510人)
また、吹田市自然体験交流センターは令和4年3月末で指定管理期間の5年が経過するため、令和3年度には新たな委託事業者の選定を行う予定です。
市が負担すべき維持補修費の財源確保も含め、計画的に維持補修をすることで施設の魅力をさらに向上させるとともに、市と指定管理者が定例的に協議を行うことにより、普段から十分なコミュニケーションを取りながら、より一層の市民サービスの向上とより良い施設運営を目指します。